

作家訪問

似鳥鶏先生

Q 1 どうして作家になったのですか？

A 最初は筆一本で食べていくつもりはなく、高校時代は自分で書いて満足するだけでしたが、大学時代から新人賞に応募し、大学院に進学して司法試験を受けながらデビューしました(司法試験の方は落ちました)。一般的には、他の仕事に就いて二足のわらじをはき、後に作家一本に絞るケースが多いのではないのでしょうか。

Q 2 挫折した経験はありますか？

A デビュー作の後の1年半、書いた作品が次々に没になったことです。今思えば、登場人物の心理がうまくつかめなかったことと、ストーリーが既存のパターンをなぞっていたことがその理由でした。収入がゼロなので貯金がどんどん減っていくだけでどこからも入金がない、という状態が続いてストレスがたまり、10本ダメだったら別の仕事にしようと思い詰めましたが、8本目によくやく企画が通って本になりました。

Q 3 本を書くときのネタはどこから出てくるのですか？

A 寝ると忘れてしまうため、手帳(実

物を見せて下さる)を常に持ち歩いて書きとめています。また、他の作家さんのミステリ作品を読んで、自分ならこう解く、と謎解きの直前に考える日頃のクセが小説につながることもあります。

Q 4 小説の舞台設定やトリックを考える時は、取材をしたり、専門書を読んだりするのですか？

A 取材は設定が決まってから行きます。トリックは、状況が盛り上がる内容を考える、という順番です。これはミステリ特有かもしれませんが。ただし、映画の名作はチェックします。「君の名は。」は観ながらずっとメモを取っていて、4作品くらい恋愛物が思い浮かびました。

Q 5 一冊書き上げるのにどれくらいかかりますか？

A 長編は4か月くらい、短編だと2週間くらいです。仕事しているうちに料理のように手順を習得し、早くになりました。

Q 6 本を書く時に気をつけていることはありますか？

A 読者です。どんな人が読むのか、また、自分から一番遠い人が読んでわかるか、実際にその立場の人が読んでどう感じるかを想像します。例えば老人が登場人物だという場合、実際の同年代の方が読んだらどう感じるかと、反応を考えます。

Q 7 作品のモデルはいますか？

A エザワさん(注…市立高校シリーズの登場人物)だけです。実在する人とのやりとりなど一部分だけをモデルにすることはありますが・・・。例外的に、『戦力外捜査官』3巻のくせもの刑事は、ドラマの役者をモデルにしました。

Q 8 小説はどこで書いていますか？

A 家だとさぼってしまうので、プロット(注…物語のあらすじのこと。A 4の紙1枚を実際に見せて下さった)を書くまでは喫茶店です。下書きからは、人目が気になるので家で書きます。

Q 9 どんな媒体で書いていますか？(お気に入りのペンなど)

A 道具はこだわりません。携帯で書く人、原稿用紙の人、ワープロの人、いろいろな作家がいると思いますが、自分の字は他人に読めないと思うのでWordを使っています。

Q 10 原稿を誤って消去してしまったことは？

A あります。バックアップは絶対に必要です。数分に一度、上書き保存。自動上書き保存機能はOFFにしています。

Q 11 タイトルはどのように考えているのですか？

A 絵画のタイトルや音楽作品のタイトルなどから気に入った語句をもらったり、他の作家さんの本からいただいた

たりすることもあります。短歌や詩も参考にします。タイトルはある程度内容を説明しないといけないので、人によって完全な説明タイプや純文学のようにセンスでかつこよくつけるタイプがあると思いますが、自分は半々かな。

Q 12 高校時代の思い出を教えてください。どんな高校生でしたか？

A 演劇部で全国大会に出場しましたが、事件発生により部活動停止処分・・・。部活では人格が変わるが、普段は地味なタイプ。クラスに話せる人が一人いるかどうかで、友達がいないと寝ているフリをしたりしていました。(注…ここで逆取材。休み時間の教室での過ごし方について↓スマホを見ている人が大半)

今は「ぼっち」は恥ずかしいことではなく、一人でいる経験が糧になっていると思えますが、当時は一人でいることに劣等感を抱いていました。

Q 13 高校時代に読んでいた本は？また、今読むのはどんな本ですか？

A 今は勉強のためなるべく色々な著者の本を一冊ずつでも読むようにしています。高校時代は宮部みゆきさん、筒井康隆さんなど。特に筒井康隆さんの本はほぼ、すべて読みました。ちなみに、中学時代は星新一さんにはまっていました。小説家になってからは、他のジャンルも読むようになり、チェックする本が増えました。同じ作家を読み続けると、その人の文体が体に染みつくような気がします。森絵都さん、

森見登美彦さん、舞城王太郎さんなどが好みです。

Q 14 高校生の頃にやってよかったと思うことはありますか？

A 部活動でバスケットボール部と演劇部を兼部していましたが、途中から演劇部に絞ったことです。男子は特に、運動部を途中でやめると、「根性なし」だと周りに思われるので悩みましたが、意地をはらずに恥をしのいで・・・。実際にバスケットボール部をやめてみると、心配はされましたが、いやなことを言う奴はいませんでした。

Q 15 演劇部時代に脚本を書いたことはありますか？

A あります。上演しませんでした、今も本棚の奥にしまっておりあります。

Q 16 高校時代に熱中していたことは？

A R P G（ゲーム）です。R P Gのシナリオを書きたかったのですが面倒で（似鳥先生注『R P G ツクール』などのツールでは、スキルや敵の設定、世界の地図などをすべて作ってからでないとシナリオが作れない。これが大変面倒くさい）、小説を書いていました。進路は生来の理屈っぽさを活かした法学を志望し、弁護士兼作家を目指していました。

Q 17 作品を書いているときのリフレッシュ方法はありますか？

A 書いているときは集中しているの

でリフレッシュしていないですね。同業の人と飲みに行ったりはしますが。書き終わったらふらっと旅行に行くこともあります。それが自由業のいいところですね。

Q 18 葉山くんと桃本くん（注…「楓ヶ丘動物園」シリーズの登場人物）の下の名前が明らかになる日は来ますか？

A 特に理由はありませんが、葉山くんは明らかにだと思います。そのうち、さらっと書きます。

Q 19 ご自分の作品で好きな探偵役は？

A 全部好きです。服部くん（注…「楓ヶ丘動物園」シリーズの登場人物）など、脇役も好きです。他の作家さんでは、猫丸先輩（倉知淳著、「猫丸先輩」シリーズ）が好きです。

Q 20 好きな推理小説は？

A 米澤穂信さんの「古典部」シリーズです。また、同じ米澤さんの「小市民」シリーズの続巻を楽しみにしています。（注…図書委員からも同様の声）

Q 21 電子書籍について。どう思われますか？

A 漫画家さんは大変だと聞いていますが、私個人はあまり困っていません。便利になってくれれば良いと思います。

Q 22 バッドエンドは好きですか？

A バッドエンド自体は好きですが、感情移入してしまうので仕事として書

くことができませぬ。皆、ハッピーエンドにしています。

Q 23 自分で小説を書くとか、ちよつとやりたいのですが、小説ってちよつとしたことでも回りくどく書いてあることが多いと思うんです。自分でいざ書いてみると面白くないというか、ドキドキしないんです。どうしたら上手く書けるとかってありますか？

A 回りくどい表現になるのは仕方ありません。自分が読んで面白くなくても、他の人が読むと意外と面白く感じるかも。また、自分の好きな作家になったつもりで書いてみて下さい。回りくどくても気にならないし、回りくどさが、作品を深めてくれることもあります。

Q 24 作家と両立できる仕事は？

A どんな職業であつても、書きたいものがあればほとんど両立可能です。仕事の経験が持ちネタになって良いし、人気のある作家ほど兼業しているか、したことがあると思います。

Q 25 似鳥鶏さんというペンネームの由来を教えてください。

A 鳥に似ていると言われたことのあの自分を表しています。

Q 26 作品の実写化について

A 原作を意識しすぎると面白くなくなってしまうと思うので、監督にお任せしています。アニメ化などの映像化を見越して書いてはいません。

Q 27 現代の高校生に読んでほしい本は？

A 好きな本を好きなように読んで下さい（注・色紙にも同じ言葉を書いて下さいました）。そのほか、『実用手続ハンドブック』（池田書店）や、「敬語表現マニュアル」など社会常識系の本を読んで社会人になる準備をしておくと思います。

Q 28 成高生に一言お願いします。

A ①好きなことをやって下さい。同級生には色々な方向に進む人がいます。将来、色々な情報を聞けるでしょう。②教科書は残しておくことです。知識になります。③大人になると好きなことを沢山できます。楽しみにして下さい。

【感想】

◆私達は、先日似鳥鶏先生にインタビューをさせていただきました。私はこれまで似鳥先生の著書を読んだことがなく、今回のインタビューに備えて初めて読みました。どの話も面白くとても読みやすかったため、当日が本当に楽しみでした。

普段お会いする機会などほとんどない「作家」の方に会うという貴重な体験である上、初参加だったので、当日はとても緊張しました。しかし、いざ始まってみると、似鳥先生の気さくな雰囲気や場の和やかさで、あまり硬くならずに楽しく過ごすことができました。インタビューの内容は興味深く、

こちらが質問した以上のことを話してくださり、話が途絶えることがありませんでした。全体を通して楽しく、充実した時間でした。

私は今回の作家訪問で、作家という職業について、以前と少し感じ方が変わりました。本の文などでしか作家その人について感じられなかったため、これまで「作家」という職業の人々はとても遠い存在でした。しかし、似鳥先生と直接お話できたことで、今までよりも身近に感じ、作家も普通の人であると思えるようになったのです。それは、これから本を読む時の、また一つ違った楽しみ方につながると感じます。

私の中のこの作家訪問は、貴重な体験として心に強く残りました。この記憶はしっかり留めておきたいです。

似鳥先生、ありがとうございました。

(1 年 N)

◆似鳥先生、この度このような学校の企画にわざわざ来て下さり、ありがとうございます。僕は小さい頃からあまり小説を読むという習慣はなく最近になって身についたのですが、作家さん本人に会うのは緊張しました。事前に顔とかその特徴を知らなかったのですが、どんな人か想像が付きませんでした。実際に会ってみると、背が高く驚いたことを覚えています。本を書く人は気難しかったり頑固だったりするのかとも思っていました。似鳥先生は話がお好きな人で、本を書く人にも色々な方がいるのだと実感させられました。

した。作家になった経緯などは興味があったので聞くことができたです。あまりできない経験を見せて頂いた学校、似鳥鶏先生には感謝しています。大変ありがとうございました。

(2 年 Y)

◆私は作家訪問で似鳥鶏先生のお話を伺うことができ、とても心が満たされました。

簡潔に書くと、作家によって書くストーリーのジャンルは決まっており、明るいストーリーを書いている人にはその「明るさ」のイメージがついてるので暗いストーリーを書いたりするのはあまりよろしくないという話を聞いたり、事件のトリックは図書館やカフェなどに行った時、「ここからあの人を殺すならどうしたらいいか・・・。」と常に考えているという話を聞きました。職業病だと思いました。最後にサインも頂きました。そのサインは図書室に入った瞬間見えるように飾られておりますので、是非ご覧下さい。これで私の作家訪問レポートを終わります。

(2 年 K O)

◆作家訪問は今回で2回目だったので、どれだけ訪問をスムーズにできるかや、どこまで深い質問ができるか考えるのはとても楽しかったです。

似鳥先生はとても気さくな方で、質問を一つすると、答えてくれた上に楽しいエピソードまで話して下さって、笑いも沸き起こり、とても和気あいあいとした時間となりました。また、今

回は、学校内をご案内するという経験もさせていただきました。成瀬高校の良い所を多く伝えることができたのではないかと思います。準備で大変なことも多い作家訪問ですが、得られるものもとても多く、有意義な時間だったと改めて感じる事ができました。

(2 年 M A)

◆今回、似鳥先生のお話をうかがえるということ、まだ先生の作品を読んだことがなかったのも、何冊か読ませていただいた。本編(学園もの、動物ものなど、基本的にはミステリ)は本当に面白いし、とても好きな作品であったが、何より似鳥先生はあどけなげに面白い。たまにメディアに顔を非常に出すおじさんは実は着ぐるみで中に十人の少女が入って操作している、と書いてあった時は、さすがに大爆笑してしまった。とても人間味があってさらさらと書いてある感じなのに、設定はやけに細かいあどけなげ。先生はどんな人なんだろうかと期待しながら作家訪問に臨んだ。先生はとてもおしゃべりだった。質問を一つ聞くと百返ってきた(「自身でもそうおっしゃっていた」)。そのおかげで、すごく深いところまでお話を聞くことができた。

作家の方にお話をうかがえるなんて、普通にはできないことだから、今回参加できて、本当に良かった。

似鳥先生が「今後の参考にしたい」ということで、私たちの学校に来て下さったことと、「もしかししたら、君たちが僕の小説に出てくるかもしれない」

とおっしゃっていただくことで、先生の作品をこれからも楽しみにしながら読み続けていくことになりそうだ。

(2 年 M O)

◆私は、今回作家訪問に参加できてとても嬉しかったです。なぜなら、私は入学する前から図書委員会の読書班に入って作家訪問に参加したいと思っていたからです。だから、念願が叶って本当に幸せでした。

・・・と、作家さんに会えることを楽しみにしていた私ですが、当日まで緊張と不安でいっぱいでした。しかし、実際にお会いしてみると、とても話しやすい方で、たくさん話している内にあっという間に時間が過ぎていってしまいました。似鳥先生はご自身のことを「私は放っておけばずっと喋っている」と言っていました。まさにその通りだと思いました。だから、私たちの質問に対して、一つ一つ丁寧に答えて下さり、話が広がっていくので、すごいと感じました。そのたくさんのお話の中で、最も印象に残ったのは似鳥先生の高校時代のお話です。これは普通のインタビューではあまり聞くことができないと思うので、貴重な体験でした。「クラスには友達が少なく無口だった。でも部活に行くと豹変してすぐ明るかった」と話されていて、今の自分に似ているので少し嬉しかったです。また、今の高校生について逆に質問され、「本当に自撮りについてうんだ！」と驚かされていたことも印象に残りました。最後に、一人一人サインも

下さり、私にとっては初めてのサインだったので、とても幸せでした。
このような経験ができたのは多くの方のお陰だと思うので、感謝しつつ、今後の図書委員の活動に活かしていきたいです。
(二年 A M)

◆似鳥先生は、とにかく明るくてよく話をされる方だなあ、と思いました。私は記録係としてインタビューの内容を記録していたのですが、ペンが追いつかないほどたくさん質問に答えていただくことができました。また、作品の中でだけでなく普段から面白い方だと感じました。作家さんと言え、何となく堅くてあまり話さないイメージを持ってしまいましたが、似鳥先生はよく冗談を言って場を和ませてくれました。さらに、質問に答えながらも座っていた椅子と机を使ったトリック(遠くに座っている人をどうしたら周りに気づかれずに殺すことができるか等)を考えていたことを知り、驚きました。普段から色々な物事をよく観察し、他の人が思いつかないような発想ができる場所がさすがだなと思いました。そして、デビュー時の苦労や創作裏話を聞くことができ、とても楽しかったです。今回の作家訪問は、準備は大変でしたが、自分の読んだ本を書いた方に直接お話を聞くことができ、すごく貴重な体験になりました。
(1 年 A Y)

◆似鳥先生は話の引き出しが多い方で、沢山面白いお話をして下さいました。

私は推理小説を書く時に、どのようにトリックを考えているのか、長い疑問に思っていました。今回似鳥先生のお話を聞いてその答えを知りました。先生は日頃から町中などで「どのようなしたらあそこにある扉の鍵がかかっているように見えるのか」「少し席の離れた人を殺すにはどういう方法があるか」などを考えて小説のネタにしているとおっしゃっていました。小説に出てくる予想外で面白いトリックは、先生の日常の観察から出来上がっているのだと分かり、似鳥先生の本でまだ読んでいないものも読みたいになりました。
貴重な思い出になりました。とても楽しかったです。
(2 年 K A)

◆昨年の東川篤哉先生に続いて、今年の似鳥先生へのインタビューにも参加させてもらえてうれしかったです。似鳥先生は話がとても面白く、インタビューは和気あいあいとした雰囲気でした。作品の制作についての説明だけでなく、プロットまで見せて下さいました。校内をご案内した時、一番気にしておられたのが化学薬品の保管方法についてで、さすが、ミステリ作家だなと思いました。作品について気になっっていた事を聞けたことはもちろん、本にサインもして下さい、とても楽しい時間でした。なにより、今回インタビューしたい作家さんに似鳥先生の名前を挙げたのは私だったのですが、前もって本を読んだ時に、他の参加者から面白いという声が沢山聞けたことが

嬉しかったです。似鳥先生も応援して下さいだったので、明日からの受験勉強も頑張れそうです。
(3 年 N)

似鳥鶏氏プロフィール

一九八一年千葉県生まれ。今年デビュー 10 周年を迎える若手ミステリ作家。近刊は『彼女の色に届くまで』『100 億人のヨリコさん』など。代表作は「市立高校」シリーズ、「楓ヶ丘動物園」シリーズ、TV ドラマ化した「戦力外捜査官」シリーズ。



(KADOKAWA)

日程 平成 29 年 7 月 12 日 (水)
午後三時三十分～六時三十分
場所 都立成瀬高校 1 階・図書室
※今回は作家さん側のご希望で、本校においていただけることになりました。
メンバー 3 年 1 名 2 年 6 名
1 年 3 名 計 10 名
顧問 佐藤恭子(国語科主任教諭)
池田祥子(司書)